

厚生労働科学研究費補助金

長寿科学総合研究事業

高齢者の社会参加に関連する要因の解明と支援システム構築に関する研究

平成 14 年度～平成 16 年度 総合研究報告書

主任研究者 長田 久雄

平成 17 (2005) 年 3 月

目 次

I. 総合研究報告

高齢者の社会参加に関連する要因の解明と支援システム構築に関する研究 . . . 1
長田 久雄 (桜美林大学大学院)

付録：資料

資料 1. 平成 14 年度調査用紙

資料 2. 平成 15 年度調査用紙

資料 3. 平成 16 年度調査用紙

II. 研究成果の刊行に関する一覧表 13

III. 研究成果の刊行物・別刷 14

I . 総合研究報告

高齢者の社会参加に関連する要因の解明と支援システム構築に関する研究

主任研究者 長田久雄 桜美林大学大学院国際学研究科老年学専攻教授

研究要旨

本研究の目的は、高齢者の社会参加に関連する要因の解明と支援システムの構築につながるような条件整備の方途を明らかにすることである。本研究の目的は、まず、高齢者の社会活動の関連要因を包括的に明らかにすることである。次に社会参加の変化に関連する要因を明確にする。第3に高齢者の社会参加に関する行政の取組み、支援システムに関する情報を収集し、支援システム構築の基礎資料を得ることであり、最終的に高齢者の社会参加モデルおよび支援システム構築の方途を具体的に提示する。協力者は1年度目の調査で回答を得られた東京都A区在住の60歳以上高齢者1,912人、1年度目2年度目の調査の両方に回答を得られた1,360人であった。そして3年度目の23市町村への調査と12市町村のインタビュー調査データをもとに分析を行った。その結果、高齢者の社会活動参加の妨害要因として、身体的健康度の低下、孤独感があげられ、促進要因は社会参加の意義、社会活動参加のきっかけであり、高齢者自身の健康問題の他に、環境や社会的問題の影響が明らかになった。また、高齢者の社会活動参加はQOL、幸福感を高めることに寄与していることが明らかとなった。社会活動参加を促進するために行政では既存の支援を促進するとともに、地域社会機能の再生強化が求められ、高齢化社会の変化に対応できる支援システム、サービスの再構築が必要であり、若い世代への支援システムの構築も必要であることが示された。以上の研究結果より、高齢者の社会活動参加促進要因、妨害要因を明らかにすることができ、高齢者の社会活動参加のモデル試案および高齢者の社会参加支援システム構築の基礎試案を提示することができると思われる。

A. 研究目的

高齢者の社会活動参加、社会貢献が、高齢者の生活の質の維持、増進に重要であることは、理論的に指摘されている（Lawton, 1972、柴田, 1996）。高齢者の社会活動への参加に関して、筆者らの研究では趣味の活動が精神的健康や生活満足感により影響があることも明らかにされている（Osadaら, 1997）。しかし、社会参加、社会貢献は高齢者の心身の健康や生活

の質の維持増進に効果があるにもかかわらず、定年退職直後にボランティアなどを通して社会貢献をする準備をしていない人が8割を超えるなど（長田ら, 2001）高齢者のマンパワーを活用するための支援システムは、現状では十分とはいえない可能性が考えられる。高齢者の社会活動参加を促進し、潜在化しているマンパワーを活用するためには高齢者の社会活動参加のモデルおよび社会参加支援システム構築

が課題となっている。そこで、本研究の目的は、高齢者の社会参加に関連する要因を包括的に検討し、社会参加が社会貢献および高齢者の心身の健康維持増進と生活の質向上につながるような条件整備の方途を明らかにすることである。その第一歩として、まず、高齢者の社会活動の関連要因を包括的に明らかにする。次に、社会参加の変化に関連する要因を明確にする。第3に、高齢者の社会参加に関する行政の取り組み、支援システムに関する情報を収集し、支援システム構築の基礎資料を得る。さらに、その結果に基づき高齢者の社会活動参加モデルおよび支援システム構築を試みる。

B. 研究方法

本研究は3年度計画であり、初年度(平成14年度)は東京都A区のシルバー人材センターおよび老人クラブ連合会の協力の下、60歳以上の3,357人を対象に、自記式調査票を平成14年12月～平成15年2月に郵送し、指定場所で簡易面接をし、回収を行った。その結果、有効回答を得られたのは1,912人であった。回収率は57.0%であった。性別構成は男性1,251人(65.8%)、女性651人(34.2%)で、男性の割合が女性より多かった。年齢階層は75歳未満の前期高齢者が1,536人(81.1%)、75歳以上の後期高齢者が359人(18.9%)で、前期高齢者の割合が高く、8割強を占めた。平均年齢は70.0±5.5歳であった。家族構成においては、一人暮らしが219人(11.5%)、夫婦のみの世帯が786人(41.1%)、その他が907人(47.4%)であった。

2年度(平成15年度)は初回調査時に追跡調査の承諾が得られた1,566人に対し、1年後の追

跡調査として平成16年1～2月に郵送法による調査を実施した。回答を得られたのは1,360人(男性68%、女性32%；平均年齢：70.2±5.4歳)であった。

調査内容は1年度、2年度ともに社会活動に関する項目、社会活動の妨害要因、促進要因、健康度、生活の質(QOL質問表)および孤独感(AOK)、幸福感、生活満足感などであった。なお、2年度はライフイベントの有無を加えたものであった。

3年度(平成16年)は全国47都道府県の公開情報に基づき各地方ごとにランダムに2～3の計24の市町村を選出し、行政担当者などへの面接を実施した。各市町村に対し初年度、次年度の調査結果と自由回答式調査票を送付し、回答を求めると同時に面接調査の依頼を行った。調査票の回答を得られたのは23の市町村であり、回答率は95.8%であった。また、面接調査の協力を得られた12の市町村(50.0%)においては行政担当者などに対し30分から75分程度の個別面接あるいは集団面接を実施した。面接調査はできたのは政令指定都市2、一般都市7、町2、村1の担当者に対し行った。調査内容は社会参加への行政の取り組み、行政からみた問題点(妨害要因)、支援システムに関する意見などであった。

倫理面の配慮：調査にあたり、個人情報、プライバシーの保護など、倫理面において十分な配慮を行ったのち実施した。

C. 結果

1. 社会活動参加の実態

高齢者の社会参加は多種多様であった。本調査では4つの社会活動領域別(個人活動12項

目、地域活動7項目、学習活動4項目、団体活動11項目)に参加している項目数を算出した。その結果、個人活動、地域活動に参加している項目数は女性の方が男性より多く、学習活動は後期高齢者の方が前期高齢者に比べて多いことがわかった。

2. 社会活動参加の妨害要因

個人活動参加における妨害要因は「誘ってくれる友人がいない」、「自分にあった活動がない」などが多くあげられ、活動を不活発にさせる要因と考えられる。学習・教育活動参加における妨害要因は「誘ってくれる友人がいない」、「新しい人間関係が面倒」などが多くあげられていた。地域活動参加における妨害要因としても「誘ってくれる友人がいない」、「新しい人間関係が面倒」、「支援する体制が不十分」などがあげられていた。

3. 個人活動と幸福感、生活の質(QOL)の生活活動力、健康満足感、経済的ゆとり、精神的健康及び知的能動性、社会的役割とは、それぞれ正の相関が示された。地域活動と幸福感、QOLの生活活動力、精神的活力および知的能動性とは、正の相関が示された。学習活動と生活満足感、幸福感、QOLの生活活動力、精神的活力および知的能動性、社会的役割との間には正の相関が認められた。団体活動と生活満足感、幸福感、QOLの生活活動力、精神的活力および知的能動性、社会的役割とは正の相関が示された。

4. 社会参加と幸福感との関連についてみると社会参加要因としては、生きがいの有無、ボランティア活動の程度、近所づきあいの程度、友人訪問の程度、趣味の有無の5要因が幸福感に有意な関連が示された。つまり、それぞれの要因がよい状態であるほど幸福感が高い。生活満

足感と社会活動との関連性は、個人活動や地域活動への参加が頻繁である人ほど、生活に満足をしているということが示された。すなわち、介入可能性の高い地域活動を促進することが、高齢者の生活満足度の向上にとって、重要であると考えられる。また、健康習慣、健康度自己評価、生活満足感と活動因子との関連性については、年齢、手段的ADL(IADL)の影響を取り除いても社会活動因子が健康習慣、健康度自己評価、生活満足感と関連することが示された。

5. QOLと社会活動頻度との関係は精神的活力で最も強く、ついで人的サポート満足感であった。逆に生活活動力、健康満足感、精神的健康は活動頻度との関係が弱いことがわかった。すなわち、社会活動参加頻度が増すことで、生活の質(QOL)が高まると考えられる。

6. 社会活動参加を総合的にみると1年間で有意な変化は認められないが、活動種目別にみると有意な変化があったのは個人活動、地域活動、団体活動であった。個人活動は減少する傾向であった。逆に地域活動、団体活動は有意な増加を示した。男女別にみると、男性においては個人活動が減少し、地域活動、団体活動は有意な増加を示した。女性においては趣味や学習活動の参加において有意な減少が見られた。男性においては地域活動、団体活動が増加したことは、活動範囲が広まった可能性が考えられる。

7. 個人活動の変化と有意な関連性が認められたのは、主観的幸福感、孤独感、健康度自己評価、健康満足感、人的サポート、精神的健康、精神的活力、社会活動参加のきっかけ、個人的側面の妨害要因であった。趣味や学習活動変化と有意な相関が認められたのは、社会活動参加の意義と社会活動参加のきっかけであった。地

域活動の変化と有意な相関が認められたのは、社会活動参加の意義と社会活動参加のきっかけであった。団体活動の変化とは主観的幸福感、孤独感、健康度自己評価、生活活動力、精神的健康、精神的活力であり、社会活動参加の意義と社会活動参加のきっかけは、ここでも有意な関連があった。社会活動参加の変化に対しては身体的、心理的、社会的側面が関連するほかに、社会活動参加の意義、社会活動参加のきっかけおよび妨害要因が規定要因であることが示された。

8. 前期高齢者における QOL の維持や改善においては、友人・親戚・趣味仲間など気心の知れた人との交流、近隣での活動の場の確保などが関連していた。一方で、精神的健康に対しては、社会活動の参加状況が変化することがネガティブな関連を持っていた。

9. 幸福感の変化に関しては、①女性高齢者の主観的健康感が高まると幸福感が上昇すること、②生きがいを持っていなかった高齢者が生きがいを見つけると男女ともに幸福感が上昇すること、③女性高齢者に限り、近所づきあいが増えると幸福感が上昇すること、④配偶者無しであった男性高齢者が配偶者を持つと幸福感が上昇することが見出された。判別分析の結果、「生きがいの有無の変化」「近所づきあいの変化」「主観的健康感の変化」といった要因が、都市部の高齢者について、幸福感が上昇したグループとそうでないグループを判別するにあたり、大きな影響力を持つことが示された。

10. 各市町村行政担当者との面接結果から①老人クラブ、シルバー人材センター、生涯学習への支援は軌道に乗っていることが示され、これまでの研究を支持する結果であった。②社会参

加の妨害要因は高齢者自身の問題以外に地域の弱体化、地域とのつながりが薄いことが示され、外出妨害要因に対してはハード面、ソフト面において多様な対応が見られた。制度面においては高齢者への求人不足、外出の受け皿不足などを加え、情報不足、人材不足、財源不足との意見が多く見られた。③高齢者の社会参加支援システムの第一歩として、各種事業の推進、拡大、活動の支援促進策では、高齢者生涯学習の推進、老人クラブの活性化、活動メニューの作成および提供、雇用の促進、高齢者の自主的な活動の促進などが指摘された。次に、地域弱体化への対応、コミュニティー機能の再生・強化や家族、世代間交流および地域とのつながりやネットワークづくり、地域での支え合い、地域・まちづくりや行政・地域の連携、情報交流などの意見、要望があった。また、高齢社会の変化、2007 年問題、団塊世代の高齢者への仲間入りなどの高齢者を取り巻く社会環境の変化に対応する支援システム、行政サービスの早期再構築が必要という意見もあり、若年期から自己の老後のビジョンを持つことや社会とのつながりが必要といった意見があった。

D. 考察

本研究は3年度計画として実施しており、高齢者の社会参加の要因分析および行政における支援システムに関する情報を収集し、上述した結果が得られた。結果をまとめると、高齢者の社会参加の促進要因は図1に示すとおりなのが明らかとなった。個人の意思は社会活動参加に対する意欲のことであり、意欲が高いもので積極的に社会活動に参加することが示された。また、友人、仲間のすすめによるきっか

けは社会活動の4側面にいずれも影響を与えることが示され、社会活動参加の促進には友人、仲間を含んだネットワークづくりが大きな影響を与えることが再確認できた(間野, 2002、土室, 2000)。また、地域に貢献したいという要望を持つものは社会活動参加が活発であり、そのニーズにあった取組みが要求される。シルバー人材活動が重要だと思ふことは本研究の対象者の大部分がシルバー人材センター会員である特徴の表れだと考えられるが、高齢者に対する就労支援が今後の大きい課題であることが考えられる。一方、奉仕活動が重要である、近所付き合いが重要であるなど社会活動参加の重要性に対する高齢者の認識が社会活動参加を活発にすることが明確となり、不活発な高齢者には社会活動参加の重要性についての情報提供や啓発的な活動の介入も有効であることがうかがえる。現状において、女性および高年齢層で活発であることから、男性や低年齢層に対するプログラム、メニューの増設をして、社会活動参加を促すことも計画や施策する上で参考になるものと考えられる。その一方、家族の影響も明らかであることから、独居高齢者のサポートも従来の研究と同様今後の課題として提示されている(安村, 2003、本田ら, 2003、杉澤ら, 2001、鳩野ら, 2001、浅川ら, 1992、直井ら, 1990、桑村ら, 2001、大野, 2002)。

同じく、社会参加の妨害要因にも「誘ってくれる友人がいない」ことがあげられ、先行研究を支持する結果であるが(望月ら, 2002)、社会活動の全ての側面に当てはまることから、高齢者のマンパワーを活用するには、地域貢献ができる高齢者のリーダーの育成が必要であり、高齢者主導の社会活動の支援も不可欠であると

考えられる。また、促進要因とは反対に「意欲がわからない」ことが個人活動、地域活動参加を不活発にしていることから、学習活動、団体活動などをおし、地域活動への参加を促すことが可能であると考えられる。同時に「興味に合う活動がない」、「自分にあった活動がない」などが社会活動参加を不活発にしていることから、高齢者のニーズの把握が求められ、ニーズに合う社会活動参加支援が必要である(前田, 1978、水野ら, 2002)。また、身体的疾患、費用がかかるなど健康面、経済面は個人活動を妨害することが示され、高齢者の体力づくりは基本となる生活機能の維持や促進とともに、個人活動の活発化につながるということが再確認できた。経済面の対応として、ニーズに合わせ無料、低コストの社会活動参加のプログラムの提供も試みる必要がある(吉川, 1985)。男性や低年齢層の高齢者の社会活動参加の不活発には高齢者のマンパワーを活用できる場の提供が少ないことや、離職や退職後の社会貢献に対する意識の低いことが考えられている(長田, 2001)。特に、今後増加が予測されるホワイトカラーの継続就労、再就職のニーズに対しては現状の社会活動参加の支援システムが不十分であることが考えられる。その問題点として、高齢者自身の社会貢献の意欲が低いことに加え、高齢者に対する求人、受け皿が十分でないことも高齢者の社会活動参加を活発にすることの妨害要因として考えられる(図2)。

本研究の社会活動参加に関連する要因の包括的な検討から得られた結果より、図3に示したとおり、高齢者の社会活動参加モデル試案を提示することができる。3年間の研究からは、これまでの研究を支持する結果が得られ、高齢

者の社会活動参加と身体的健康度、精神的健康度、健康度自己評価、幸福感および生活の質の間の関連性は明らかであった（宮中, 1995、村岡, 1996、西野, 1986、倉林ら, 2002 荒尾ら, 1998、山下ら, 1993、吉川, 1985、佐藤ら, 2001、深沢, 1997、岡村, 1991、栗原ら, 2003、佐藤ら, 2002、杉澤ら, 1994、森, 2002、加藤, 1998、中島, 1984、白神, 1991、須貝ら, 1996、出村, 2001、前田, 2002、古谷野, 1982、浅野, 2000、小林ら, 2003)。つまり、社会活動参加が幸福感、生活の質に寄与すること、そして、健康度が社会活動に対し、影響を与えることである。

一方、行政の調査からは、社会活動の支援事業は高齢者福祉計画の一環として行われていることが明らかとなり、老人クラブ、生涯学習、シルバー人材センターなどの就労事業への支援は活発であった。また、市町村ごとに地域にあった取組みが見られ、従来の研究報告で得られなかった部分も本研究では明らかにすることができた。行政の役割として、社会活動参加を促進するためには積極的な取組みが必要であり、行政におけるハード面やソフト面への支援はもちろん、既存の支援サービスを促進するとともに、地域高齢者のニーズの把握や、それぞれ地域の現状にあった計画、施策が必要であり、地域社会機能の再生強化や高齢化社会の変化に対応できる支援システム、サービスの再構築が必要である。さらに、社会活動参加の支援システム構築は若い世代を含むものであるべきであり、若いうちからの老後の自身、社会に対するビジョンが必要であると考えられる。このように不明瞭な点があるものの、高齢者の社会活動支援システムイメージ図（図4）を提示することができる。

しかし、今回の研究において、高齢者の社会参加の関連要因と行政の取組みには、必ずしもマッチできているとは言い難い面も確かにあり、高齢者のニーズの把握の不十分さも浮上している。その点については今後の課題としてさらなる検討が必要であると考えられる。

以上の結果を踏まえ下記の事項を提示する。

- 1) 地域高齢者の健康度を把握の上、健康度を維持、促進をする社会参加プログラムを提供する。
- 2) 地域高齢者、特に閉じこもり、独り暮らしを積極的に行う必要がある。
- 4) 高齢者のためのネットワークを通し社会参加のきっかけづくりに努める必要がある。
- 5) 社会活動参加の支援はアクセス面、整備や費用の面を考慮したプログラム、メニューを提供する。
- 6) シルバー人材センター、就労支援は収入のある仕事の提供や専門性を活かせる多様な社会参加プログラムを提供する。
- 7) 高齢者の社会参加に対する意識を高める啓発的な活動のための支援システムが必要である。
- 8) 社会参加支援事業の評価やサポート体制が必要である。
- 9) 地域社会の特徴を活用した（気候、風習）、多種多様な社会参加プログラムを提供する。
- 10) 社会参加支援事業の育成や地域住民主体となる支援システムを構築する必要がある。
- 11) 就業継続希望者、健康老人が増加することが予測され、ホワイトカラー、団塊世代への対応策を早急に実施する必要がある。
- 12) 若年期からの地域社会との関わり、趣

味活動参加や交流を促すことが必要である。

E. 結論

高齢者の社会参加は高齢者自身の健康問題以外に高齢者を取り巻く社会環境により影響を受けることが明らかになった。また、高齢者の社会参加は高齢者のQOL、幸福感を高めることに寄与していた。社会参加を促進するために行政では既存の支援を促進するとともに、地域社会機能の再生強化が求められ、高齢化社会の変化に対応できる支援システム、サービスの再構築とともに、若い世代への支援システムの構築も必要であることが明らかとなった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

論文発表

なし

学会発表

1) 小川まどか、針金まゆみ、小林廣美、長田久雄. 高齢者の社会的活動への参加状況と妨害要因との関連. 日本老年社会学会第 46 回大会報告要旨集. 2004 ; 26 (2) : 225.

2) 針金まゆみ、小川まどか、小林廣美、長田久雄. 高齢者の社会的活動への参加意義および参加状況と生活満足度との関連. 日本老年社会学会第 46 回大会報告要旨集. 日本老年社会学会. 2004 ; 26 (2) : 226.

3) 島田今日子、小川まどか、長田久雄. 高齢者の社会的活動の参加状況と主観的健康観との関連. 日本健康心理学会第 17 回大会発表論文集. 2004 ; 214-215.

4) 小川まどか、島田今日子、長田久雄. 高齢者の社会的活動と家族状況との関連. 日本健康心理学会第 17 回大会発表論文集. 日本健康心理学会. 2004 ; 216-217.

5) 荒居和子、愈今、長田久雄、芳賀博、高田和子. 高齢者ボランティア活動とその関連要因. 民族衛生. 2004;70: 144-145.

6) 荒居和子、愈今、長田久雄、柴田博、渡辺修一郎. 高齢者ボランティア活動の実態と身体的・心理的・社会的要因との関連. 日本老年社会学会第 47 回大会. 2005. 6 東京 (発表予定)

7) 功刀たみえ、長田久雄、愈今、高田和子、西下彰俊. 高齢者の孤独感とライフイベントおよび他者との交流の関連. 日本老年社会学会第 47 回大会. 2005. 6 東京 (発表予定)

8) 愈今、長田久雄、高田和子、西下彰俊. 高齢者の社会参加に関連する要因の包括的検討. 日本老年社会学会第 47 回大会. 2005. 6 東京 (発表予定)

H. 知的財産権の出願・登録情報

なし

研究協力者

愈 今 (桜美林大学加齢発達研究所)

針金 まゆみ (桜美林大学大学院)

小川 まどか (桜美林大学大学院)

島田 今日子 (桜美林大学大学院)

小沢 敬子 (桜美林大学大学院)

山田 佳代子 (桜美林大学大学院)

荒居 和子 (桜美林大学大学院)

功刀 たみえ (桜美林大学大学院)

文献

1. Lawton, M. P., Assessing the competence of older people, In Kent, D. P., Kastenbaum, R. & Sherwood, S. (ed.), Research Planning and Action for the Elderly: Power and potential of Social Science, Behavioral Publications, 1972.

2. 柴田博. 高齢者の Quality of Life と生活機能. 理学療法学. 1996 ; 23 (3) : 87-93.

3. Osada, H., Shibata, H., Suzuki, T. Hobbies and their relation to physical and psychological conditions in the elderly of a Japanese urban community. 1997, Facts, Research and Intervention in Geriatrics. 1997;181-187

4. 長田久雄・岡本多喜子・立山萬里他. 老人性痴呆 (ぼけ) に関する家族意識の調査研究報告書. 財団法人ぼけ予防協会. 2001.

5. 間野百子. 米国における高齢者の社会参加の意義と促進—AARP のコミュニティ活動を通しての考察—. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 2002 ; 42 : 429-437.

6. 土室修. 在宅高齢者のネットワーク活動. 日本の地域福祉. 2000;14: 111-119.

7. 安村誠司. 高齢者における「閉じこもり」第 45 回日本老年医学会学術集会記録 日本老年医学会. 2003 ; 94 : 470-472.

8. 本田亜起子、斉藤恵美子、金川克子、村嶋幸代. 一人暮らし高齢者の特性 —年齢および一人暮らしの理由による比較から—. 日本地域看護学会誌 2003 ; 5 (2) : 85-89.

9. 杉澤秀博、小林江里香、深谷太郎、柴田博 Jersey Liang. 友人との接触場所として病院を利用する高齢者の特徴. 日本公衛誌 2001 ; 48 (10) : 807-815.

10. 鳩野洋子、田中久恵、古川馨子、増田勝

恵. 地域高齢者の閉じこもりの状況とその背景要因の分析. 日本地域看護学会誌. 2001 ; 3 (1) : 26-31.

11. 浅川達人、高橋勇悦. 都市住居高齢者の社会関係の特質—友人関係の分析を中心として—. 総合都市研究. 1992 ; 45 : 69-95.

12. 直井道子. 都市居住高齢者の幸福感—家族・親族・友人の果たす役割—. 総合都市研究. 1990 ; 39 : 149-159.

13. 桑村由美、多田敏子、橋本文子、松下恭子. 閉じこもり状態にある高齢者の生きがいについて —面接調査による考察—. 徳島大学医療技術短期大学部紀要. 2001 ; 11 : 69-76.

14. 大野昌美. 在宅高齢者の配偶死別者と有配偶者の生活要因からみた閉じこもり予防に関する研究. 日本看護医療学会雑誌 2002 ; 4 (2) : 1-10.

15. 望月七重、季政元、包敏. 高齢者のボランティア活動 (参加・継続意向) に影響を与える要因 —高齢者大学の社会還元活動実態調査から—. 関西学院大学社会学部紀要 2002 ; 3 : 181-193.

16. 前田大作. 高齢者能力の社会的活用の背景と問題 (高齢者能力の社会的活用). 社会老年学 1978;9:3-12.

17. 水野敏明、水野かがみ、宮田延子. 地域高齢者を対象とした生きがい・運動習慣の確立に関する研究. 中日本自動車短期大学論叢. 2002 ; 32 : 33-49.

18. 吉川弘. 高齢者の学習要求—新潟県大潟町の調査から—. 新潟大学教育学部紀要人文・社会科学編. 1985 ; 27 (1) : 1-8.

19. 宮中文子、松岡知子、西田茂樹、岩脇陽子、中谷公子、中島健二. 中高年女性 (祖母) の子

育て参加の実態と心理的健康との関連について(第1報). 老年社会科学. 1995; 17(1): 21-25.

20. 村岡義明, 生地新, 井原一成. 地域在宅高齢者のうつ状態の身体・心理・社会的背景要因について. 老年精神医学雑誌. 1996; 7(4): 397-407.

21. 荒尾孝, 種田行男, 永松俊哉. 地域高齢者の生活体力とその関連要因. 日本公衛誌. 1998; 45(5): 396-406.

22. 山下一也, 小林祥泰, 山口修平, 小出博己, 今岡かおる, 卜蔵浩和, 須山信夫. 社会的活動性の異なる健常老人の主観的幸福感と抑うつ症状. 日本老年医学会雑誌. 1993; 30(8): 693-697.

23. 岡村清子, 団地居住老人の余暇活動. 社会老年学. 1991; 33: 3-14.

24. 佐藤秀紀, 佐藤秀一, 山下弘二. 地域在宅高齢者における活動能力と社会活動の関連性. 日本保健福祉学会誌. 2002; 8(2): 3-15.

25. 西野仁, 高橋和敏, 三宅基子. 欲求からみた高齢者のレクリエーション活動の継続理由について—ゲートボールプレイヤーが自覚する継続理由より—. 東海大学紀要体育学部. 1986; 16: 11-29.

26. 倉林しのぶ, 後閑容子, 春山早苗. 過疎地域の高齢者の社会参加に影響を及ぼす要因に関する研究. 群馬県立医療短期大学紀要. 2002; 9: 109-116.

27. 吉川弘. 高齢者の学習要求—新潟県大潟町の調査から—. 新潟大学教育学部紀要人文・社会科学編. 1985; 27(1): 1-8.

28. 佐藤秀紀, 佐藤秀一, 山下弘二, 山中朋子, 柴田ミチ, 鈴木幸雄, 松川敏道. 地域高齢者の体

力自己評価に関連する社会活動の要因. 青森県立保健大学紀要. 2001; 2(1): 27-35.

29. 深沢宏. 高齢者の余暇参与傾性要因に関する研究—秋田, 山梨, 高知県老人クラブの調査から—. スポーツ社会学研究. 1996; 4: 79-92.

30. 栗原(若狭)律子, 桂敏樹. ひとり暮らし高齢者の「閉じこもり」予防および社会活動への参加に関連する要因. 日本農村医学会雑誌. 2003; 52(1): 65-79.

31. 森俊太. 高齢者の生きがい—通文化的な分析モデルを求めて. 社会学年誌. 2000; 41: 15-29.

32. 加藤孝一. これからの中高齢者福祉施策のあり方(5) 生きがいと生涯学習. 企業福祉. 1998; 21: 62-66.

33. 中島綱博. 高齢者の生きがい促進総合事業(高齢化社会における社会教育〈特集〉) 社会教育. 1984; 39(9): 23-26.

34. 白神克義, 犬飼義秀. 高齢者の生きがいに関する社会心理学的研究. 岡山県立短期大学研究紀要. 1991; 36: 82-90.

35. 須貝孝一, 安村誠司, 藤田雅美, 蘭牟田洋美, 井原一成. 地域高齢者の生活全体に対する満足度とその関連要因. 日本公衛誌. 1996; 43(5): 374-389.

36. 出村慎一, 野田政弘, 南雅樹, 長澤吉則, 多田信彦, 松沢甚三郎. 在宅高齢者における生活満足度に関する要因. 日本公衛誌. 2001; 48(5): 356-366.

37. 前田清, 太田壽城, 芳賀博, 石川和子, 長田久雄. 高齢者のQOLに対する身体活動習慣の影響. 日本公衛誌. 2002; 49(6): 497-506.

38. 湊田英津子. エンパワメントを意図した高齢者の生活条件に関する研究. 日本保健福祉

学会誌. 2003 ; 9 (2) : 19-29.

39. 古谷野亘. 老人の社会的活動と主観的幸福感に関する主な実証研究:1961~1980. 応用社会学研究. 1982 ; 23 : 185-210.

40. 浅野仁. 高齢者の幸福感と社会参加. 都市問題. 200 ; 91 (11) : 81-90.

41. 小林江里香, 矢富直美. なぜことぶきの家に行かないのか? :都市部における老人福祉センターの非利用要因の分析. 老年社会科学. 2003;25(3): 302-314.

42. 森岡清志. 高齢者の幸福感と外出行動. 都市計画 日本都市計画学会. 1996:204 (12) :13-16.

図1. 社会活動参加の促進要因

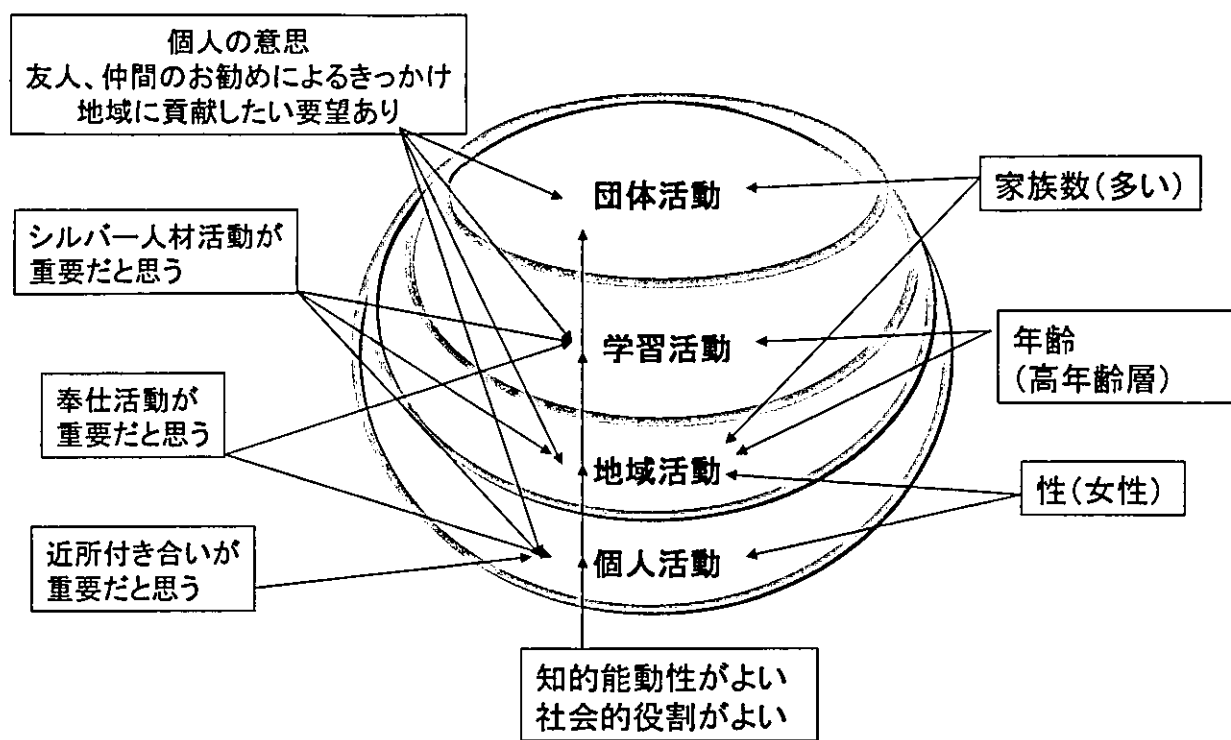


図2. 社会活動参加の妨害要因

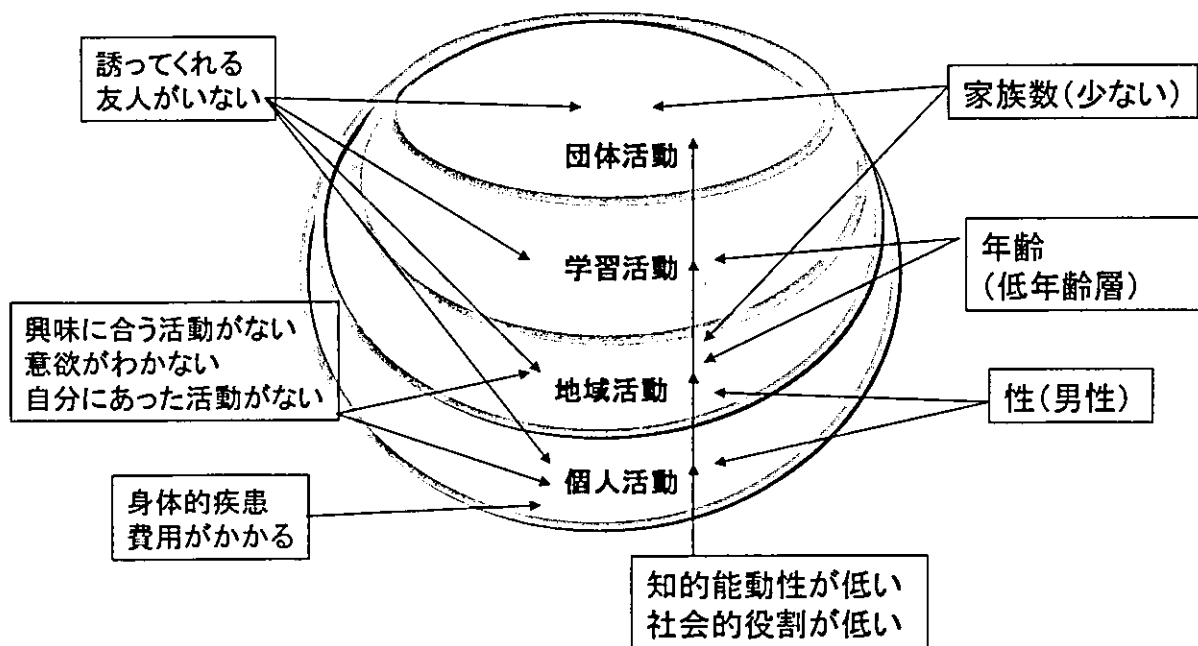


図3. 社会活動参加モデル試案

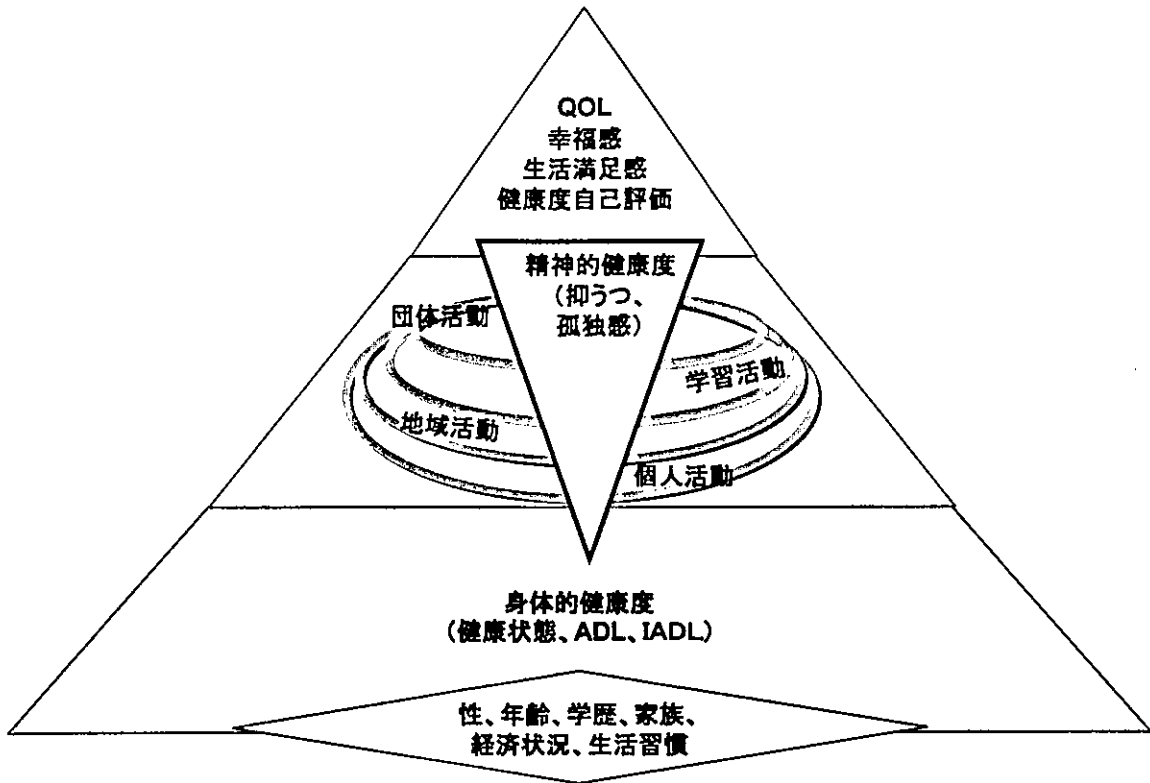
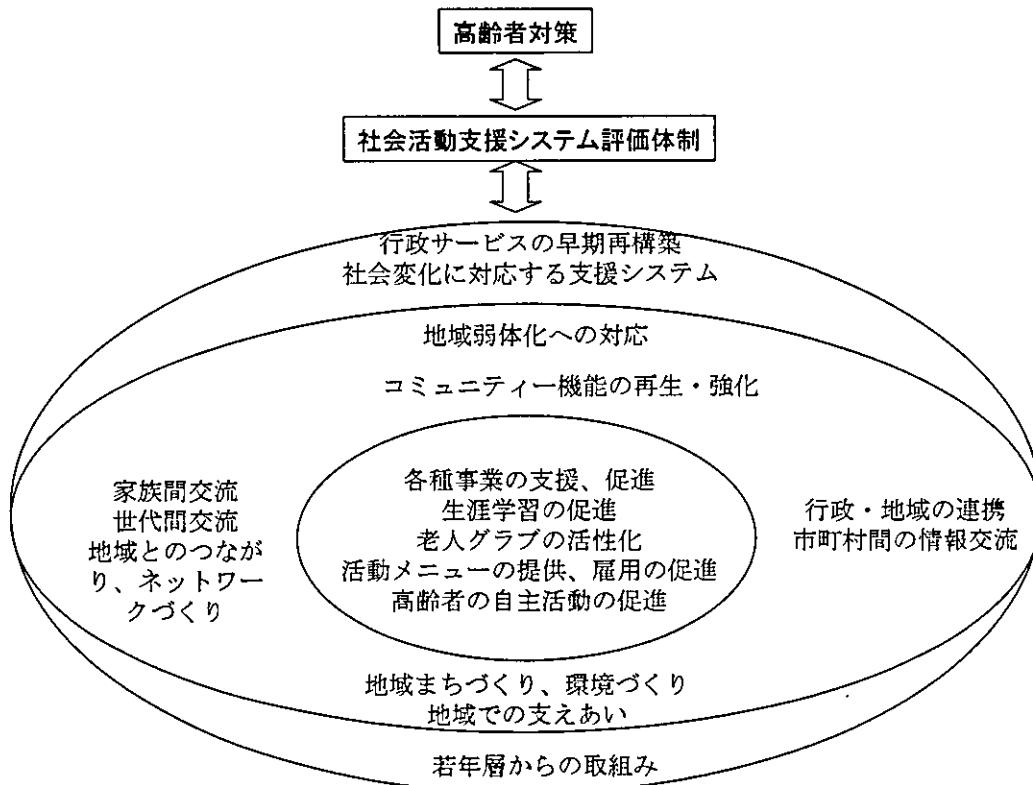


図4. 高齢者の社会活動支援システム(案)



資料

高齢者の社会参加に関するアンケート調査

調査ご協力のお願い

この調査は、厚生労働省科学研究費の補助を受け、足立区社会教育委員会のご協力の下、みなさまの社会的活動への参加と、それに関する心身の健康や日常生活に関してお尋ねし、豊かな高齢社会の実現に資することを目的としております。たくさんの質問があり恐縮ですが、何卒、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

調査結果は、プライバシーに配慮し、集団のデータとして処理いたします。また、アンケート結果は、研究目的以外に使用しませんし、結果の分析が終了しました後、研究者の責任において適切に処理させていただきます。なお、今回ご協力くださいました方には、ほぼ1年後に、再度調査させていただきたいと存じます。ご協力頂けます方には、最終11ページにご氏名とご連絡先をご記入くださいますようお願い申し上げます。

各方面にご協力頂き調査票を配布させて頂いておりますので、重複してお願い申し上げました場合には、1回分だけご回答くださいますようお願いいたします。

平成15年1月
研究代表者 長田久雄
桜美林大学大学院教授
足立区社会教育委員

問い合わせ事務局
ジュコークリエイティブ
調査部
東京都文京区白山1-7-6
電話 03-5689-2641

◎記入上のお願い

1. 回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、必要なことから、または数字を書き込むものがあります。
2. 都合によりご自分で記入できない方は、代理の方に記入していただくようお願いいたします。

1. 明治

問1. 生年月をご記入ください。

2. 大正 年 月生 満 歳

3. 昭和

問2. 性別 1. 男 2. 女

問3. あなたの世帯の同居人数は、ご自分を含めて全員で何人ですか。人数をご記入ください。
(同一敷地内別棟も同居とみなしてお答えください。)

ご自分を含めて () 人 ※一人暮らしの場合は、「1」とご記入ください。

問4. あなたは、どなたと同居されていますか。それぞれの項目ごとに、「いる」「いない」どちらかに○印をつけてください。

ア. 配偶者（夫または妻）	1. いる	2. いない
イ. 未婚の子ども	1. いる（ 人）	2. いない
ウ. 既婚の子ども（子どもの配偶者も含む）	1. いる（ 人）	2. いない
エ. 孫（孫の配偶者も含む）	1. いる（ 人）	2. いない
オ. あなたの父母。または、配偶者の父母	1. いる（ 人）	2. いない
カ. その他（ ）	1. いる（ 人）	2. いない

問5. さっそくですが、あなたは、全体として現在の生活に満足していらっしゃいますか。

1. 非常に満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. あなたはふだん、ご自分で健康だと思えますか。次のうち、もっともあてはまる番号をひとつ選んで○印をつけてください。

1. 非常に健康だと思う 2. まあ健康な方だと思う 3. あまり健康ではない 4. 健康ではない

問7. 次のそれぞれの項目について、「はい」か「いいえ」どちらかあてはまる番号に○印をつけてください。

1. バスや自転車を使って一人で外出できますか。	1. はい	2. いいえ
2. 日用品の買い物が自分でできますか。	1. はい	2. いいえ
3. 食事の支度ができますか。	1. はい	2. いいえ
4. 金銭の管理・計算ができますか。	1. はい	2. いいえ
5. 身の回りのことは自分でできますか。	1. はい	2. いいえ
6. 健康だと感じていますか。	1. はい	2. いいえ
7. 毎日気分良くすごせますか。	1. はい	2. いいえ
8. 体調が優れないことが多いですか。	1. はい	2. いいえ
9. 元気だと感じていますか。	1. はい	2. いいえ
10. まわりの人とうまくいっていますか。	1. はい	2. いいえ
11. 友人とのつきあいに満足していますか。	1. はい	2. いいえ
12. 家族とのつきあいに満足していますか。	1. はい	2. いいえ
13. 気楽に用事を頼める人がいますか。	1. はい	2. いいえ
14. 近所づきあいに満足していますか。	1. はい	2. いいえ
15. ある程度お金に余裕がありますか。	1. はい	2. いいえ
16. 小遣いに満足していますか。	1. はい	2. いいえ
17. 何かの時のためにお金の蓄えはありますか。	1. はい	2. いいえ
18. 将来に不安を感じていますか。	1. はい	2. いいえ
19. 寂しいと思うことがありますか。	1. はい	2. いいえ
20. 自分が無力だと感じることがありますか。	1. はい	2. いいえ
21. 気分が落ち込むことがありますか。	1. はい	2. いいえ
22. 将来に夢や希望がありますか。	1. はい	2. いいえ
23. 趣味はお持ちですか。	1. はい	2. いいえ
24. 生きがいをお持ちですか。	1. はい	2. いいえ
25. 毎日の生活で気力を感じますか。	1. はい	2. いいえ
26. 年金などの書類が書けますか。	1. はい	2. いいえ
27. 新聞を読んでいますか。	1. はい	2. いいえ
28. 本や雑誌を読んでいますか。	1. はい	2. いいえ
29. 健康についての記事や番組に関心がありますか。	1. はい	2. いいえ
30. 友だちの家を訪ねることがありますか。	1. はい	2. いいえ
31. 家族や友だちの相談にのることがありますか。	1. はい	2. いいえ
32. 病人を見舞うことができますか。	1. はい	2. いいえ
33. 若い人に自分から話しかけることができますか。	1. はい	2. いいえ
34. ひとりで電話をかけられますか。	1. はい	2. いいえ

問8. あなたは、現在収入のある仕事についていますか。

1. いる 2. いない



「いる」とお答えの方におたずねします。それは常勤ですか非常勤（パート）ですか。

1. 常勤 2. 非常勤（パート） 3. シルバー人材センターの仕事

問9. あなたは、次のような社会的活動をどの程度していらっしゃいますか。各内容ごとに、あてはまる番号に○印をつけてください。内容が重複しているように思われる場合でも、それぞれにお答えください。

(1) 近所づきあい
(ひとつだけ○印)

1. いつも 2. ときどき 3. あまり 4. まったく
 している している していない していない

(2) 生活用品や食料品の買い物
(ひとつだけ○印)

1. いつも 2. ときどき 3. あまり 4. まったく
 している している していない していない

(3) デパートなどでの買い物（少し離れた場所へ出かけての買い物）
(ひとつだけ○印)

1. いつも 2. ときどき 3. あまり 4. まったく
 している している していない していない

(4) 近くの友人・友だちを訪問すること
(ひとつだけ○印)

1. いつも 2. ときどき 3. あまり 4. まったく
 している している していない していない

(5) 近くの親戚を訪問すること
(ひとつだけ○印)

1. いつも 2. ときどき 3. あまり 4. まったく
 している している していない していない

(6) 遠くの友人・友だちを訪問すること
(ひとつだけ○印)

1. いつも 2. ときどき 3. あまり 4. まったく
 している している していない していない